

極窮女於尺迦丈六佛願福分示奇表以現得大福緣第廿八

聖武天皇世奈羅京大安寺之西里有一女人極窮命活无由而飢○下

(倭訓栞前編十九)なら奈良を日本紀に平と見えたりよて平城ともいへる也、ならの葉の名におふみやとよめるも、平城の宮をさして申せる也、寧樂をよむは寧吳音にやうにや反な也、諸樂をよむは韻會に諾々囊入聲と見ゆ、なくともなぎともよむ意也、諸樂は唐書に出たり、靈異記に諸碑とも見ゆ、

(和漢三才圖會七十三)奈良當國者本朝之國初而神武天皇自日向宮崎遷都於當國檍原以來數回雖有遷都多有於大和于今呼奈良稱南都亦其緣也、

(大和志添上郡)村里南都一名奈良町一百三十五高畠紀寺梅園肘塚京終木辻城戸杉町

三條油坂芝辻川上般若寺奈良坂野田以上十五村園南都

(日本書紀仁德)三十年九月乙丑皇后遊行紀國略中天皇遣舍人鳥山令還皇后略中皇后不還猶行之略中卽越那羅山望葛城歌之曰、菟藝泥赴那莽之呂餓波烏瀨那能朋利和餓能朋例麼阿烏珥豫辭離羅烏輸疑烏陀氐夜莽苦烏輸疑和餓瀨餓朋辭區珥波箇豆羅紀多伽瀨那和藝弊能阿多利、

(日本書紀二十八)元年六月庚寅初向乃樂、

(續日本紀四元明)和銅二年九月戊午車駕至自平城、  
(三代實錄四清和)貞觀二年十月十五日辛卯大和國平城京中水田五十五町四段二百八十八步施捨不退超昇兩寺、

(伊勢物語上)むかしをとこうひかうぶりして、ならの京かすがの里に玄るよし玄て、かりにいにけり、

(日本書紀四開化)元年十月戊申遷都于春日之地、